

東日本大震災 ～鹿島高等学校の場合～

麻生高等学校 教諭 飯島 力

1. 地震発生時の様子

平成23年3月11日14時46分、突然強い揺れに襲われた。そのとき私はたまたま1階にいて、正面玄関から外に出た。揺れが収まるまでほとんど何もできず、揺れの収まるのを待つしかなかった。揺れが収まって、校内放送で全校生徒に避難するよう指示が出された。6時限目の授業中であったが、生徒は避難訓練のときと同様に整然と前庭駐車場に避難した。生徒の確認が終わってから、しばらく待機していると、また強い揺れに襲われた。茨城県沖が震源のM 7.4、震度6弱の地震であった。その後もしばらく待機し続けていたが、大きな揺れが収まり、生徒を迎えにくる保護者も現れ、生徒は帰宅していった。

2. 地震発生後の対応

神栖方面に帰宅した生徒で、谷原の信号のところ（鹿嶋市と神栖市の境界付近）で津波による浸水があり、通行不能となり、保護者も生徒を迎えに来られず、帰宅困難生徒20名が学校に戻ってきた。また、家族で避難してきた地域住民や、合宿のため波崎に向かっていた東京の大学生等10名が会議室で一晩を過ごすことになった。この日、たまたまバスケット部が合宿をする予定だったので、蒲団が合宿所に運ばれていたため、急遽それを使って暖をとることができた。鹿嶋市は幸い停電にならずにすんだので会議室のエアコンが利用でき、寒さを凌ぐことができた。一部の教員が残り、ほぼ徹夜でさらなる地震に備えた。食料品の調達に行ったが、スナックやカップラーメンのようなものしか買えなかったが、とりあえず空腹は免れた。

翌朝になって近所の住民は帰宅し、昼までには生徒の保護者も迎えにきて、全員帰宅できた。

3. 被害状況

- ・本館から体育館への渡り廊下および本館から特別棟（2棟）への渡り廊下のつなぎの部分の破損
- ・体育館の大きな窓枠（4×10m）が1枚はずれる。
- ・体育館天井ボードのビスが抜け落ち、天井ボードの落下の危険性が高まり、しばらく体育館は使用できなくなった。
- ・体育館の窓ガラスが割れ、ガラスの破片がフロアに突き刺さっていた。
- ・特別棟（3棟）3階の英語科準備室のスチールロッカーが倒れ、水道の蛇口を直撃したため、水道管が破損・漏水し、2階まで水浸しとなった。
- ・図書室の書架がほとんど倒れ、破損。
- ・本館および3棟の脇に設置してあるFRP製の受水槽の繋ぎ目から漏水。